調剤 MEDIAS (Medical Information Analysis System)

最近の調剤医療費(電算処理分)の動向 令和2年度11月

〇 概要

(1) 令和2年11月の調剤医療費(電算処理分に限る。以下同じ。)は5.982億円(伸び 率(対前年度同期比。以下同じ) ▲5.6%) で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,519 円(伸び率+7.2%)であった。(→P.1~2)

調剤医療費の内訳は、技術料が 1.540 億円 (伸び率▲8.2%) 薬剤料が 4.430 億円 (伸び率▲4.7%)、薬剤料のうち、後発医薬品が924億円(伸び率+5.8%)であった。 (→P.4)

- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋 1 枚当たり薬剤料 5.637 円(伸び率+7.8%) を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に 分解すると、各々2.78 種類(伸び率▲1.8%)、27.1 日(伸び率+12.6%)、75 円(伸 び率▲2.5%) であった。(→P.8.9)
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬の薬剤料 3.543 億円 (伸び幅(対前年度同期差。以下 同じ。) ▲192 億円) を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器 官用薬の612 億円(伸び幅▲50 億円)で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬 の+27 億円 (総額 371 億円) であった。(→P.13~19)

左松豆八	内服薬 総額	総額順(総額)		
年齢区分	(伸び幅)	1位	2位	3位
人左松	3,543 億円	21 循環器官用薬	39 その他の代謝性	11 中枢神経系用薬
全年齢	(▲192 億円)	(612 億円)	医薬品(612 億円)	(595 億円)
0 歳以上	21.3 億円	44 アレルギー用薬	22 呼吸器官用薬	61 抗生物質製剤
5 歳未満	(▲7.1 億円)	(8.5 億円)	(3.6 億円)	(3.2 億円)
5 歳以上	73.0 億円	44 アレルギー用薬	11 中枢神経系用薬	61 抗生物質製剤
15 歳未満	(▲11.8 億円)	(27.8 億円)	(20.9 億円)	(4.5 億円)
15 歳以上	1,262 億円	11 中枢神経系用薬	39 その他の代謝性	21 循環器官用薬
65 歳未満	(▲50 億円)	(275 億円)	医薬品(233 億円)	(186 億円)
65 歳以上	844 億円	39 その他の代謝性	21 循環器官用薬	42 腫瘍用薬
75 歳未満	(▲32 億円)	医薬品(176 億円)	(169 億円)	(118 億円)
75 ' 101 L	1,343 億円	21 循環器官用薬	11 中枢神経系用薬	39 その他の代謝性
75 歳以上	(▲92 億円)	(253 億円)	(200 億円)	医薬品(197 億円)

(4) 処方箋 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9.519 円 (伸び率 +7.2%) で、最も高かったのは高知県(11,537円(伸び率+7.1%))、最も低かった のは佐賀県(7.906円(伸び率+4.1%))であった。

また、伸び率が最も高かったのは富山県(伸び率+9.2%)、最も低かったのは秋田 県(伸び率+3.4%)であった。(→P.31~32)

≪≪後発医薬品の使用状況について≫≫

【**後発医薬品割合**】(→P.39)

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース(新指標) ^{注)}	81.7 %	+2.1 %
薬剤料ベース	20.8 %	+2.1 %
後発品調剤率	77.5 %	+1.5 %
(参考)数量ベース(旧指標)	58.3 %	+3.0 %

注) [後発医薬品の数量] / ([後発医薬品のある先発医薬品の数量] + [後発医薬品の数量]) で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】(→P.40~41)

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+5.8 %	+23.7 %	▲ 12.9 %
		(100 歳以上)	(5 歳以上 10 歳未満)
後発医薬品割合(薬剤料ベース)	20.8 %	29.9 %	13.4 %
		(100 歳以上)	(10 歳以上 15 歳未満)
後発医薬品割合(数量ベース、新	81.7 %	86.3 %	76.2 %
指標)		(100 歳以上)	(10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品(内服薬) 薬効分類別】(→P46~50)

【医无色末		大見力リ』 (一个F.40~30)		
年齢区分	内服薬 総額	総額順(総額)		
十断区力	(伸び幅)	1 位	2位	3位
全年齢	798 億円	21 循環器官用薬	11 中枢神経系用薬	23 消化器官用薬
土十町	(+40 億円)	(241 億円)	(122 億円)	(101 億円)
0 歳以上	7.6 億円	44 アレルギー用薬	22 呼吸器官用薬	61 抗生物質製剤
5 歳未満	(▲1.0 億円)	(3.9 億円)	(2.3 億円)	(0.6 億円)
5 歳以上	15.9 億円	44 アレルギー用薬	22 呼吸器官用薬	11 中枢神経系用薬
15 歳未満	(▲2.7 億円)	(9.7 億円)	(1.8 億円)	(1.6 億円)
15 歳以上	263 億円	21 循環器官用薬	11 中枢神経系用薬	44 アレルギー用薬
65 歳未満	(▲2 億円)	(69 億円)	(49 億円)	(31 億円)
65 歳以上	191 億円	21 循環器官用薬	23 消化器官用薬	39 その他の代謝性
75 歳未満	(+12 億円)	(73 億円)	(23 億円)	医薬品(20 億円)
75 歳以上	321 億円	21 循環器官用薬	11 中枢神経系用薬	23 消化器官用薬
	(+33 億円)	(98 億円)	(52 億円)	(48 億円)

【後発医薬品 都道府県別】(→P.55~60)

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,470 円	1,934 円(北海道)	1,218 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+20.2%	+26.8 %(徳島県)	+17.1 %(福井県)
新指標による後発医薬品割合(数量ベース)	81.7 %	89.2 %(沖縄県)	77.5 %(徳島県)
後発医薬品割合(薬剤料ベース)	20.8 %	24.8 %(鹿児島県)	18.0 %(京都府)
後発医薬品調剤率	77.5 %	83.5 %(沖縄県)	72.3 %(東京都)
(参考) 旧指標による後発医薬品割合(数量ベース)	58.3 %	66.3 %(沖縄県)	54.0 %(東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- ○審査支払機関(社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会)において、 レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象として いる。
- 〇令和2年11月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。